

「生き抜く力」を育む園小中一貫教育

英語って楽しいな

こども園では昨年度からCIR(国際交流員)のエラ・クレートンさんと交流し、英語に親しむ時間をつくっています。今年度は「色」「数字」「形」「体」をテーマに英語活動に取り組んでいきます。4月には、英語で色を表現したり、エラさんが言った色を保育室の中から探すゲームをしたりして楽しみました。この時間は子どもも大人もオールイングリッシュを意識しながら過ごしているので、自然に英語が耳に入ってきます。聞くだけでなく、真似して話してみようという姿も見られるようになりました。楽しく遊びながら本物に触れることが、英語に親しむ一番の近道です。小さい時期からの学びを小中学校へつなげていき、国際的な視野を持った子どもたちの育成を推進していきたいと思います。



【問合せ】 教育委員会事務局 82-1118

社会教育あれこれ

新規指定文化財のご案内

令和7年3月に、新たに3件の文化財が町の指定文化財になりましたのでご紹介します。

むさか こうしんとう

無坂庚申塔（三吉）

江戸時代には、庚申の日の夜、人が寝静まると体の中にいる虫がその人の悪事を閻魔大王に報告し、寿命を縮めると考えられていました。そのため、その日は集団で寝ずに朝まで過越し、虫が這いだすことを防いだそうです。この催しの後には、行事を記念し庚申塔が建立されました。無坂庚申塔は、町内最大規模を誇り、無坂村だけでなく周辺の村人の名前も掘られており、広域的な庚申講が行われていたことを裏付けています。



かすみだん ようがい ほうきょういんとう

霞段の要害宝篋印塔（霞）

この宝篋印塔は、欠落している部材があり完全な形ではありません。しかし、基壇部分の石の脇に「永和二年七月日」という南北朝時代の北朝年号が彫られていることが、2年前に判明しました。一方、印賀地区の印賀宝篋印塔には、南朝方の年号が記されています。つまり、同じ町内に南北朝時代の異なった勢力の年号を有する宝篋印塔が確認されたのです。鳥取県内でも南北朝時代の年号が彫られた石造物は少ないため、当時の地域情勢を知る上でも重要な石造物と言えます。



これつぎ ほうきょういんとう

是次宝篋印塔（中石見）

是次集落の山手側耕作地の法面に1基の宝篋印塔があります。この宝篋印塔に文字情報は確認されていませんが、形状から南北朝時代頃の造りと考えられています。石造物に一部欠損はあるものの、欠落した部品は残っており、本来の完全な形を復元することが可能です。

南北朝時代の石造美術を知る上でも完全な形の宝篋印塔は貴重な存在といえます。



問合せ：教育課 82-1118

